

## 💡 ごみ出しカレンダーを配布します



来年度のごみ出しカレンダーは、広報なすしおばら3月5日号に併せて各戸配布します。また、次の窓口でも3月5日以降に入手できるほか、市ホームページやごみ分別アプリでも見ることができます。年始休みなどの都合により、収集パターンを一部変更していますので注意してください。

### ▶ 配布窓口

☑ 廃棄物対策課、☑ 市民福祉課、☑ 総務福祉課、 箒根出張所、那須塩原クリーンセンター、各公民館、各図書館、各保健センター

## ごみに関する“困った”を解決！ ごみ分別アプリを利用しませんか



いつでもどこでも「ごみ出しカレンダー」「ごみ分別事典」を簡単に確認できるだけでなく、「よくある質問(Q&A)」や「出し忘れ防止アラート」などの便利な機能が満載です。ぜひこの機会に利用してみませんか？

ダウンロードはこちら



Andoroid版



iPhone版

## プラスチックごみの減量に向けて、さまざまな取り組みを実施しています

家庭から大量に排出されているプラスチックごみ。市では、持続可能な開発目標(SDGs)の達成や環境への負担軽減を図るため、家庭から排出されるプラスチックごみの減量や自然環境の保全、ポイ捨てや不法投棄の防止などに取り組んでいます。

### 「栃木からの森里川湖プラごみゼロ宣言」を県と県内全市町で宣言

市民や事業者に必要な使い捨てプラスチックの使用削減、再生材や生分解性プラスチックの利用促進を働きかけ、併せてプラスチックごみのリサイクルと適正処理の徹底を図っています。

### 「那須地区レジ袋削減推進協議会」における活動

本市、大田原市、那須町の民間事業者や市民団体、行政が協働して標語コンテストやマイバッグコンテストを実施。受賞、応募作品を「巻狩まつり」や「消費生活と環境展」などで展示するほかホームページなどに掲載しています。

### 毎年5月と11月に「市民一斉美化運動」を実施

本市と市民がポイ捨てや不法投棄されたごみを共同で回収し、処分しています。自然環境の保全、ポイ捨てや不法投棄が行われにくい環境を目指しています。

### プラスチック製品の代替品を積極的に活用している市内事業者

県は令和元年10月に生分解性ストローの実証事業を行い、市内でも3事業者がこの事業に参加しました。食事や買い物をする場所を選ぶときに、これらのような事業所を選ぶだけで、プラスチックごみの削減に参加することができます。

- ① 塩原もの語り館 カフェレストラン 洋燈(塩原747)、② 株式会社アグリパル塩原 喫茶コーナー(関谷442)
- ③ くる麦(二区町322-65)

※生分解性ストロー：植物由来の原料を使用しており、土中に埋めると水と二酸化炭素に分解されるとされます。

# ごみを減らし、資源化に努めよう

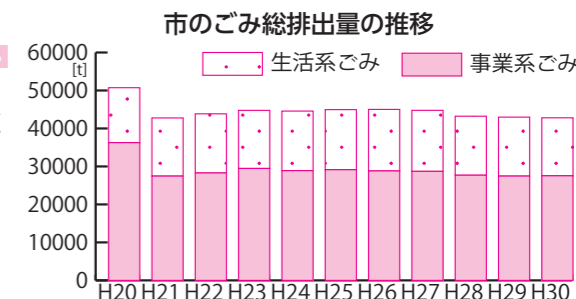
問い合わせ ☎ 廃棄物対策課 ☎ 0287(62)7301

### ◆ごみの総排出量

ごみは、「生活系ごみ」と「事業系ごみ」に分けられます。生活系ごみは、家庭から出されるごみや資源物、集団資源回収(地域団体などが行う資源物回収)に出される資源物を合わせたものです。事業系ごみは、小売店、飲食店などの事業所から出される産業廃棄物以外のごみおよび資源物のことです。

### 有料化後“ほぼ”横ばいで推移するごみの総排出量

平成21年度の生活系ごみ処理の有料化により減少し、その後はほぼ横ばいです。内訳は生活系ごみが64%、事業系ごみが36%です。



1年間 **42,802t** ※平成30年度。 前年度比 **0.4%減**

### 有料化により激減した生活系ごみ

平成21年度の有料化導入により減少し、その後、増加傾向が見られましたが、平成25年度以降はわずかに減少傾向となっています。近年減少傾向にある原因は、民間の資源物回収量が増えたことから市が収集する資源物量が大幅に減少したためと考えています。

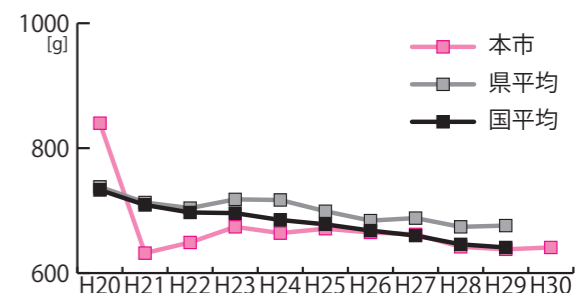
1日・1人 **641g** ※平成30年度。 前年度比 **0.5%増**

### ◆減らない可燃ごみの排出量◆

生活系ごみのうち、可燃ごみの排出量は増加傾向です。

1日・1人 **503g** ※平成30年度。 前年度比 **1.4%増**

### 生活系ごみ1人1日当たりのごみ排出量の推移

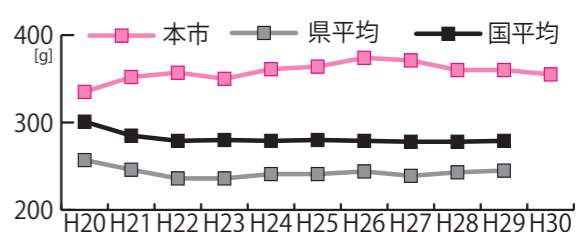


### なかなか減らない事業系ごみ

年度により増減はあるものの、長期的に国県の平均を上回っています。

1日・1人 **355g** ※平成30年度。 前年度比 **1.4%減**

### 事業系ごみ1人1日当たりのごみ排出量の推移

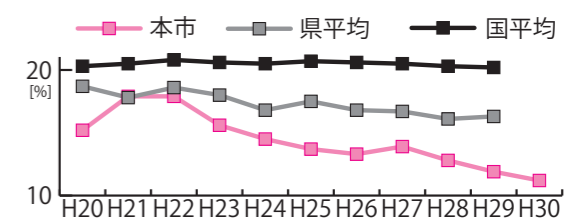


### 進まないごみの資源化

資源化率は、国県の平均と比較し、低い状態が続いています。放射線の影響で焼却灰の資源化が進まないこと、民間の資源物回収量が増えたことなどが原因と考えています。

平成30年度 **11.2%** 前年度比 **5.9%減**

### 資源化率の推移



※資源化率：ごみ総排出量に対するリサイクル業者などに引き渡した資源物の量の割合です。